

社会政策学会 Newsletter

1997.5.8

No. 14

社会政策学会100周年記念大会公開シンポの開催決まる

仏教大学の協力を受けて100周年記念大会前夜の10月31日に、公開シンポジウムを開く計画があることはニュース・レター第13号等でもお知らせしましたが、詳細が決定しましたのでお知らせします。一般市民にも公開されますが、学会員の皆様もふるってご参加下さるようご案内いたします。

公開シンポジウム「ジェンダーで社会政策をひらく - 労働・福祉・家族 - 」

日時 97年10月31日(金) 午後6~8時

会場 佛教大学四条センター

(京都市下京区四条烏丸北東角 京都三井ビル4階)

パネリスト 労働 小松満貴子(武庫川女子大)

福祉 二宮厚美(神戸大学)

家族 戒能民江(東邦学園短大)

コーディネーター 伊藤セツ(昭和女子大)

浜岡政好(佛教大)

問い合わせ先 佛教大学総合研究所

〒603 京都市北区紫野北花ノ坊96

075-491-2141

幹事会記録

社会政策学会幹事会(96~98期第12回)記録

日時 8月5日(火)午後2~5時

場所 一橋大学磯野研究館2階高田研究室

議長 高田一夫

出席者 伊藤セツ、加藤佑治、上井善彦、二村一夫、高田一夫、玉井金五

議題

報告事項

1. 会務報告

会員数 894(7月7日現在)

会費納入者数 514(57.4%、昨年7.23現在で57.4%)

滞納者 1年 251

2年 66

3年 25

その他 39(名誉会員を含む)

2. 第96回大会(98年春)の共通論題について

玉井金五コーディネーターより資料配付

共通論題テーマ「日雇い労働者・ホームレスと現代日本」

趣旨

今年春の第 94 回大会で「日雇労働者とホームレス」の分科会を開催した。分科会では実態調査に基づいた報告（東京、名古屋、大阪）をもとに、できるだけ現状の正確な把握に努めた。分科会では、今三つの地域がどのような状況に置かれているかが明らかになったし、その異同も浮かび上がった。結果として、問題の重要性が十分認識できたと思う。

では、今後いかなる施策を打ち出すべきかということが問われるし、また新たに発生しつつある課題への解答が求められるのはいうまでもない。たとえば、最近ホームレスの生活保護をめぐって名古屋地裁の判決が出た。それはこれまでの生活保護のあり方の是非を問う重大な契機となるのは必至である。また、日雇労働市場への外国人の参入も大きな問題を引き起こしつつある。とくに、中高年日雇労働との競合が表面化してきているのはそのひとつである。

そこで、今年の分科会を拡大・発展させる形で第 96 回大会の共通論題「日雇労働者・ホームレスと現代日本」を組むことになった。本大会では、分科会での議論を踏まえて、もう少し大きな視点から本課題に接近してみたいと考えている。

つまり、やや総括的な言い方になるが、日本の高度成長を担った労働者が今どのような境遇に置かれようとしているのか、当時構築されつつあった社会制度に包摂しきれなかったことが現在いかなる形で発現しているのか等々。これらに対する社会政策的な回答を与えずして戦後の総決算はできないであろう。

幸い、今年春の大会は「アジアの労働と生活」が共通論題として組まれた。アジアのトップランナーとしての日本の労働者の不安定層がどのように変容してきたのか、またアジアの労働市場とのかかわりで見るといかなる構図が浮かび上がるのか、さらには視野を広げて欧米の状況との比較からするとどのような特質が抽出できるのか、といった点においてもテーマ上かなり連続性を有すると思われる。

1 報告予定者等について

コーディネーター 玉井金五（大阪市立大）

座長 庄谷怜子（神戸女子大）

取り上げるべきテーマと報告予定者

- 1) 課題と方法
- 2) 日雇労働者の高齢化と労働市場
- 3) 建設労働と日雇労働者・ホームレス
- 4) ホームレスと生活保護行政
- 5) 外国人労働者の流入と日本の不安定層
- 6) 欧米の状況との比較

2 コメンテーターについて

コメンテーターをぜひつけたいと考えている。

報告者が最終決定次第、コメンテーターの人選に入りたい。

約 3 名ぐらいを予定している。

3 その他

分科会の反省会と今後に向けての打ち合わせ会を 97 年 6 月 13 日（金）に大阪で開催した。

3. 前回の幹事会で話題となった佛教大学との共同開催のシンポジウムがほぼ固まった。第 95 回大会前夜の 10 月 31 日 6 時より佛教大学四条センターにて公開シンポジウムを行う。テーマは「ジェンダーが社会政策をひらく」である。社会政策学会が主催し、仏教大が協力する形で行う。

審議事項

1. 第 97 回大会（98 年秋）の企画について次の点が確認された。

岐阜経済大学が開催を内諾した。
テーマは高齢化問題が上がっている。

2. 96回大会のテーマ別分科会について
95回大会の前日までに企画案を提出して貰うこととした。

3. 科研費審査員の推薦について
学術会議より1段審査を2名推薦せよとの通知があった。8月8日締め切りで、会員より2名を推薦した。

4. 役員選挙について
前回の幹事会でワーキング・グループを組織したが、伊藤セツ幹事をグループ幹事とし、推進していただくこととした。
なお、上井幹事より、常任幹事会を設けたらどうかの提案があった。

5. 大会運営のあり方について
前回の幹事会で問題を提起したが、大会運営を改革するための検討グループを組織し、具体手順の検討に入りたい。学会運営の問題も討議する。
大会運営に関するプロジェクト・グループのメンバーは、上井喜彦、佐口和郎、高田一夫、玉井金五、中川清の5名が選出された。

6. 入会の承認

河野 真	コウノマコト	兵庫女子短大生活科学科	社会政策	池田信、大谷強
山辺 揺子	ヤマベヨウコ	神戸大学大学院経済学研究科	経済政策、医療経済学	足立正樹、小林甲一
伊藤ゆき	イトウユキ	埼玉大学附属図書館	社会政策	上井善彦、小笠原浩一

7. 次期業績リスト作成委員会の担当校について

業績リストは今回から、年報には掲載しない。業務を簡素化するため、Eメールかフロッピー・ディスクでの提出としたらどうか、との意見が出された。

発行
社会政策学会
代表幹事 高田 一夫
〒186 東京都国立市中2-1
一橋大学社会学部高田研究室内
電話 & FAX 0425-80-8829

Email cs00051@srv.cc.hit-u.ac.jp
